

政策シート (政策名) 地域の文化遺産の保全・活用

(予算費目名) 博物館費

(総合計画体系)

「分野」 文化・生涯学習

30年後の姿 創造都市を実現し、音楽の都として世界から注目されている。

- 10年後の目標
- ・ 音楽などの芸術をきっかけとして新たな文化や産業が創出されている。
 - ・ 多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる喜びを市民が実感している。

◆基本政策 感動のある生活、歴史・文化・スポーツによる豊かさの創造

◇政策の概要

- ①魅力ある展示会・学習会・講座・体験館などを開催し、博物館で学ぶ機会を拡充します。
- ②歴史資料を適切に保管するために、収蔵資料台帳を整備し、デジタル化するとともに、調査研究に基づいた資料の公開活用を進めます。
- ③市民の博物館活動への参加と、地域、学校、大学等との連携事業を推進します。
- ④市民や学校の要望に応える新たな博物館構想の策定に着手するとともに、分館の事業の充実を図ります。

◇政策のコスト(千円)

	H27	H28	H29
予算	124,845	151,057	106,163
決算	124,601	121,922	
人件費(A)	83,200	86,000	88,400
報酬(B)	144	144	144
年間経費(予算又は決算+A+B)	207,945	208,066	194,707

◇政策の指標

政策指標	単位	H36 目標値	年度	H27	H28	H29
博物館の年間観覧者数	人	71,000	目標	71,000	71,000	71,000
			実績	73,876	80,743	
分館における展覧会開催数	回	15	目標	10	10	10
			実績	14	13	
			目標			
			実績			

◇平成28年度の政策評価(政策の概要)

- ①魅力ある展示会・学習会・講座・体験館などを開催し、博物館で学ぶ機会を拡充します。
- ②歴史資料を適切に保管するために、収蔵資料台帳を整備し、デジタル化するとともに、調査研究に基づいた資料の公開活用を進めます。
- ③市民の博物館活動への参加と、地域、学校、大学等との連携事業を推進します。
- ④市民や学校の要望に応える新たな博物館構想の策定に着手するとともに、分館の事業の充実を図ります。

◇平成28年度の政策評価(政策の進捗・課題)

<進捗> 計画通り

博物館のトイレ配管修繕工事や感知器・誘導灯の修繕工事、駐車場整備工事、伊場遺跡公園の弥生時代の環濠復元、蛸塚公園の旧高山家住宅の茅葺屋根改修を実施し、来館者が安全に博物館や史跡が見学できるよう学習環境の整備を進めました。

特別展「遠江の木喰仏」を開催し郷土の歴史資産の公開に努めました。また、「山へ行こう」「井伊直虎と湖北の戦国時代」「弥生時代の土器と交流」「日本神話ってなんだろう」を開催し、浜松地域の歴史文化の普及発展に努めました。

監査で指摘された収蔵資料のデジタル化をスピード感を持ち、また、質の向上を目指します。

◇政策実現のために実施する事業一覧

	事業名	総合戦略	重点戦略	主要事業	完了	コスト (千円)	事業費 (千円)	人工			報酬 (千円)	
								正規	再任用 (31h)	再任用 (26h)		非常勤
1	博物館運営事業	○	○			71,206	52,802	1.7	0.6		1.5	144
2	遺跡公園運営事業					39,866	31,426	0.8	0.4		0.5	
3	博物館展示会開催事業	○	○			31,788	12,168	2.7	0.2			
4	学習会開催等連携事業					30,262	5,382	2.4	0.3		2.5	
5	博物館資料調査収集活用事業					21,585	4,385	1.4	0.5		2.0	
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
計						194,707	106,163	9.0	2.0		6.5	144

※人工単価(千円)正規7,000 再任用(h31)3,600 再任用(h26)2,600 非常勤2,800

事業シート (事業名) 博物館運営事業

◇事業目的・事業対象

博物館は、浜松地域の歴史と文化を紹介する博物館施設を管理し、浜松市民の学習を支援する機能を維持します。これにより、新しい時代に向けた浜松市民の文化創造に寄与します。

◇事業の概要

以下の博物館と分館の建物、設備等の維持管理を行います。

- ・博物館維持管理事業
- ・市民ミュージアム浜北維持管理事業
- ・舞阪郷土資料館維持管理事業
- ・姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館維持管理事業
- ・春野歴史民俗資料館維持管理事業
- ・水窪民俗資料館維持管理事業
- ・博物館関連施設維持管理事業(さくま郷土遺産保存館、水窪カモシカと森の体験館、龍山郷土文化保存伝習施設)
- ・博物館施設整備事業

◇事業の性質

開始年度	終了予定	会計区分	事務区分	根拠法令等	総合戦略	重点戦略	主要事業
S54	—	一般会計	自治事務(その他)	浜松市博物館条例	○		○

◇事業のコスト

		H27	H28	H29
事業費(千円)	予算	75,908	94,739	52,802
	決算	75,908	68,404	
	国・県支出		3,210	
	市債			
	その他	5,349	7,430	13,367
	一般財源	70,559	57,764	39,435
一般会計繰入金				
人件費(報酬等) (千円)		144	144	144
人件費 (千円)		18,260	16,860	18,260
人工	正規	1.7	1.7	1.7
	再任用(h31)	0.6	0.6	0.6
	再任用(h26)			
	非常勤	1.5	1.0	1.5

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
施設管理状態に対する満足度 (%)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	90	90	90	90	90	90
実績値	90	90				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						
主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						
主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						

◇平成28年度の事業評価

・平成28年度の事業の概要

以下の博物館と分館の建物、設備等の維持管理を行います。

- ・博物館維持管理事業
- ・市民ミュージアム浜北維持管理事業
- ・舞阪郷土資料館維持管理事業
- ・姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館維持管理事業
- ・春野歴史民俗資料館維持管理事業
- ・水窪民俗資料館維持管理事業
- ・博物館関連施設維持管理事業(旧さくま郷土遺産保存館、水窪カモシカと森の体験館、旧龍山郷土文化保存伝習施設)
- ・博物館施設整備事業

・事業の成果と課題

指標の達成度

平成28年度の利用状況及び業務の執行状況は次のとおりです。
 博物館ではトイレ配管修繕工事、感知器・誘導灯修繕工事、漏電火災警報装置取替修繕工事、室外除湿機修繕工事、第1駐車場陥没修繕、区画線工事、第2駐車場整備工事、区画線修繕工事等を実施し、水窪民俗資料館では煙感知器取替工事、警報装置修繕工事、トイレフラッシュバルブ取替工事を実施し、姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館では「旧山瀬家のコヤ」茅葺屋根改修工事、トイレ壁面修繕工事、非常ベル修繕工事、空冷チラー修繕工事を実施したことにより、市民の歴史学習を支援する機能を維持できたものと考えます。また、旧さくま郷土遺産保存館及び附属プレハブ倉庫については撤去工事を実施しました。

・事業の見直し

実施結果
 大項目 小項目 / 事業費 人工

本年度は、感知器・誘導灯修繕工事、漏電火災警報装置取替改修工事などにより改善し、来館者の安全が確保されました。
 また、博物館施設再編計画にもとづく、閉館となっていた旧さくま遺産保存館の解体整備工事が完了しました。

今後の方向性
 大項目 小項目 / 事業費 人工

施設の長寿命化と大規模改修を考えるとともに、来館者の安全と満足度が確保できる維持管理を目指していきます。

事業シート (事業名) 遺跡公園運営事業

◇事業目的・事業対象

博物館は、蜷塚(遺跡)公園を、隣接する博物館と一体的に管理し、伊場遺跡公園とともに学び憩える歴史公園としての機能を維持します。これにより、貴重な歴史的文化的遺産の保護と活用を図ります。

◇事業の概要

- ・蜷塚公園及び伊場遺跡公園の、除草・樹枝剪定等の業務委託事務、公園用地の賃貸借契約事務など、維持管理業務を行います。
- ・復元家屋ほかの屋外展示物や園路の補修工事など、遺跡公園の整備を行います。

◇事業の性質

開始年度	終了予定	会計区分	事務区分	根拠法令等	総合戦略	重点戦略	主要事業
S54	—	一般会計	自治事務(その他)	浜松市博物館条例	—		

◇事業のコスト

		H27	H28	H29
事業費(千円)	予算	26,667	32,788	31,426
	決算	26,667	32,921	
	国・県支出			
	市債			
	その他			
	一般財源	26,667	32,921	31,426
	一般会計繰入金			
人件費(報酬等) (千円)				
人件費 (千円)		8,440	8,440	8,440
人工	正規	0.8	0.8	0.8
	再任用(h31)	0.4	0.4	0.4
	再任用(h26)			
	非常勤	0.5	0.5	0.5

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
公園整備件数 (件)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	6	6	6	6	6	6
実績値	9	9				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						
主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						
主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						

◇平成28年度の事業評価

・平成28年度の事業の概要

・蜷塚公園及び伊場遺跡公園の、除草・樹枝剪定等の業務委託事務、公園用地の賃貸借契約事務など、維持管理業務を行います。
・復元家屋ほかの屋外展示物や園路の補修工事など、遺跡公園の整備を行います。

・事業の成果と課題

指標の達成度

進んでいる

○蜷塚公園・伊場遺跡公園維持管理事業

蜷塚公園・伊場遺跡公園における、樹木等の管理及び伊場遺跡公園巡回清掃を委託として実施しました。

○遺跡公園整備事業

蜷塚公園整備として園路の舗装修繕工事、中央ゾーンエリア剪定工事、ベンチ修繕工事、竹柵修繕工事、貝層保存施設展示ケース等塗装及び修繕工事、フェンス修繕工事、旧高山家南面茅葺改修、荒壁・三和土・建具修理工事を行いました。伊場遺跡公園整備として、弥生時代の環濠の修復工事、環濠説明看板の設置工事、遮蔽林の剪定工事、奈良時代の役所復元家屋東側建物修復工事を行いました。

以上により、蜷塚公園ならびに伊場遺跡公園内にある建物・園路等が修繕され、来園者にとって浜松の歴史文化を学習でき、親しみのある公園を維持できました。

・事業の見直し

実施結果

大項目 現状 小項目 - / - 事業費 現状 人工 現状

公園内の補修や、高木の剪定により、公園の若返りを図るとともに、利用者が公園を安全かつ快適に使用できるように努めました。

今後の方向性

大項目 改善 小項目 その他 / 事業費 拡大 人工 拡大

今後も、貴重な歴史的文化遺産である蜷塚公園及び伊場遺跡公園について、長寿命化に向けて、修繕整備と維持管理に努めていきます。

また、ボランティアとの協働をはじめ、市民目線に立った公園づくり、魅力アップに努めていきます。

事業シート (事業名) 博物館展示会開催事業

◇事業目的・事業対象

博物館は、常設展や特別展・テーマ展などの展示会で浜松市民が地域の歴史文化遺産について実際に目に触れる機会を創出します。また、観光や学習等で浜松を訪れる人びとに、地域の個性ある歴史文化を紹介します。

◇事業の概要

常設展・テーマ展開催事業

- ・浜松市の歴史文化について通史的に常時紹介する常設展示を行います。
- ・常設展示を補完するため、展示内容を深く掘り下げ、魅力ある歴史文化遺産を紹介するテーマ展示を開催します。

巡回展開催事業

- ・本館のテーマ展を分館等に巡回展示します。
- ・地域の独自文化と広域性を比較する巡回展を開催します。

特別展開催事業

- ・郷土の歴史文化遺産を全国の関連資料とともに紹介します。
- ・浜松が全国に誇る魅力ある歴史文化遺産を、市民の目に触れる機会をつくれます。

◇事業の性質

開始年度	終了予定	会計区分	事務区分	根拠法令等	総合戦略	重点戦略	主要事業
S54	—	一般会計	自治事務(その他)	博物館法	○	—	○

◇事業のコスト

		H27	H28	H29
事業費(千円)	予算	14,073	13,290	12,168
	決算	11,894	11,407	
	国・県支出			
	市債			
	その他	2,261	1,273	1,372
	一般財源	9,633	10,134	10,796
	一般会計繰入金			
人件費(報酬等) (千円)				
人件費 (千円)		19,420	19,420	19,620
人工	正規	2.7	2.7	2.7
	再任用(h31)			0.2
	再任用(h26)	0.2	0.2	
	非常勤			

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
特別展及びテーマ展における来館者数 (人)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	43,000	43,000	43,000			43,000
実績値	44,824	48,913				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
特別展及びテーマ展の平均満足度 (%)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	90	90	90			90
実績値	90	90				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
市民協働産学連携による展示会の開催 (件)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	2	3	3			5
実績値	5	5				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						

◇平成28年度の事業評価

・平成28年度の事業の概要

常設展・テーマ展開催事業

- ・浜松市の歴史文化について通史的に常時紹介する常設展示を行います。
- ・常設展示を補完するため、展示内容を深く掘り下げ、魅力ある歴史文化遺産を紹介するテーマ展示を開催します。

巡回展開催事業

- ・本館のテーマ展を分館等に巡回展示します。
- ・地域の独自文化と広域性を比較する巡回展を開催します。

特別展開催事業

- ・郷土の歴史文化遺産を全国の関連資料とともに紹介します。
- ・浜松が全国に誇る魅力ある歴史文化遺産を、市民の目に触れる機会をつくれます。

・事業の成果と課題

指標の達成度

平成28年度の事業執行状況は次のとおりです。①テーマ展として「浜松と地震」「弥生時代の土器と交流」「日本神話ってなんだろう」「山へ行こう」「井伊直虎と湖北の戦国時代」、小展示「道具たちの百年」「遠江の今川氏」「直虎紀行」「干支展 酉にちなむ」などを開催しました。「弥生時代の土器と交流」では、三遠南信地域をテーマとして扱い、三遠南信地域の市町村の協力のもと展示を実施しました。「井伊直虎と湖北の戦国時代」はNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の放映に併せて展示会を開催し、市民や浜松を訪れた方の関心の高い展示となりました。「遠江の今川氏」では遠江歴史文化ネットワーク(西部12市町)との連携事業として開催しました。②巡回展として「浜松と地震」「浜松とイグサ栽培」「日本神話ってなんだろう」などの本館開催の展示を分館で行ったり、「舞阪小学校内遺跡展」「旅への誘い」など分館だけの展示を実施し、遠方の市民のみなさんに観覧していただきました。③特別展は「遠江の木喰仏」を開催し、遠州地方の木喰仏を一同に集め、多くの観覧者が鑑賞することができました。

・事業の見直し

実施結果

大項目 小項目 / 事業費 人工

市民が関心を持つ展示会を開催しました。省庁・市内外の文化施設・大学等研究機関・学校教育機関等との相互協力や、コレクター・市民ボランティアの参加などにより、地域の歴史遺産の掘り起こしや、個性ある地域文化の発信の場を提供できました。

今後の方向性

大項目 小項目 / 事業費 人工

博物館・分館・市内の展示施設等において、それぞれの施設の置かれた地域の資料を取り入れた新しい展示企画を進めていきます。

また、博物館は諸機関・施設・団体等と連携して、市民協働による展示会を開催していきます。

事業シート (事業名) 学習会開催等連携事業

◇事業目的・事業対象

博物館は、地域の歴史文化遺産を広く紹介し、市民の学習、研究の機会を広めるため、講座・講演会・学習会等を開催して、市民協働参画のもと世代を越えた文化の継承を目指します。また、未来を引き継ぐ子供には、土日や長期の休日に子供向けの講座・体験学習などの学習機会を提供します。

◇事業の概要

講座・体験館等開催事業

- ・地域の歴史文化に関する講座、講演会を開催します。
- ・児童生徒を対象にした体験事業、季節や年中行事に関連する体験事業を、ボランティア活動や市民協働により開催します。

- ・ボランティア養成のための講座を開催します。

おでかけミュージアム開催事業

- ・学校移動博物館の開催と学校への教材貸出を行います。
- ・市内の民間施設での展示会(逸品まちかど陳列事業)や出前講座を、積極的に行います。
- ・地域の歴史文化遺産を守り育てる市民団体を支援し、博物館の事業への参画を呼びかけます。

◇事業の性質

開始年度	終了予定	会計区分	事務区分	根拠法令等	総合戦略	重点戦略	主要事業
S54	—	一般会計	自治事務(その他)	博物館法	—	—	—

◇事業のコスト

		H27	H28	H29
事業費(千円)	予算	3,476	5,385	5,382
	決算	3,249	4,766	
	国・県支出			
	市債			
	その他		1,960	2,000
	一般財源	3,249	2,806	3,382
	一般会計繰入金			
人件費(報酬等) (千円)				
人件費 (千円)		23,180	24,580	24,880
人工	正規	2.4	2.4	2.4
	再任用(h31)			0.3
	再任用(h26)	0.3	0.3	
	非常勤	2.0	2.5	2.5

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
新たな体験メニューの開発 (件)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	3	3	3			5
実績値	3	5				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
博物館ボランティアの年間参加者数 (人)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	1,000	1,000	1,000			1,300
実績値	368	310				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
学校への教材利用件数 (点)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	1,600	1,600	1,600			1,900
実績値	928	1,364				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						

◇平成28年度の事業評価

・平成28年度の事業の概要

講座・体験館等開催事業

- ・地域の歴史文化に関する講座、講演会を開催します。
- ・児童生徒を対象にした体験事業、季節や年中行事に関連する体験事業を、ボランティア活動や市民協働により開催します。
- ・ボランティア養成のための講座を開催します。

おでかけミュージアム開催事業

- ・学校移動博物館の開催と学校への教材貸出を行います。
- ・市内の民間施設での展示会(逸品まちかど陳列事業)や出前講座を、積極的に行います。
- ・地域の歴史文化遺産を守り育てる市民団体を支援し、博物館の事業への参画を呼びかけます。

・事業の成果と課題

指標の達成度

計画通り

平成28年度の事業執行状況は次のとおりです。①春休み体験館では「昔のおもちゃで遊ぼう」「勾玉づくり」等、昭和レトロな博物館では「しじみ屋」「昭和のあそび」等、大昔サバイバルツアーでは「原始時代の生活体験」、夏休み体験館では「扇子づくり」「埴輪づくり」「缶バッチづくり」等を開催しました。また、古民家の旧高山家を利用して、昔の食事作りを体験してもらいました。②旧高山家では、月1回ボランティア団体の協力で「かや葺屋根の下で聞く日本昔話」を開催し、常連の方をはじめ多くの親子が参加しています。③学校移動博物館では市内各区の小学校を訪問し、博物館資料の展示と体験講座を実施し、教材用の博物館資料の貸出を行いました。また、授業や校外学習で博物館を利用していただくため、教員向けの博物館利用講座を開催しました。④平成28年度の「博物館の逸品まちかど陳列事業」は産業展示館・フラワーパーク・銀行などで開催し多くの方に博物館資料を見学していただきました。

・事業の見直し

実施結果

大項目 改善 小項目 その他 / 事業費 現状 人工 現状

通常の展示会ではできない体験型の催しを開催して、市民の歴史文化への興味付けや、博物館観覧者と事業参加者のリピーターの増加を計ります。

今後の方向性

大項目 改善 小項目 その他 / 事業費 拡大 人工 現状

市内各地域との連携を深めて博物館のアウトリーチ事業を積極的に行います。新しい団体や機関との協働や連携を視野に入れて、様々な事業展開を考えます。博物館が近くに無い地域への展示公開事業の補完や、博物館の認知度を高めるため、アウトリーチ事業を広く展開していきます。また、事業の拡大に伴い地域で活動するボランティアや団体への支援を行います。

事業シート (事業名) 博物館資料調査収集活用事業

◇事業目的・事業対象

浜松の歴史文化遺産を広く調査収集し保存することが目的です。そしてこれらの歴史文化遺産により、過去の浜松の営みを市民に紹介するとともに、現在の生活文化を将来の浜松市民に伝えてゆくことも博物館の使命です。

◇事業の概要

1. 資料の調査収集事業

- ・考古、歴史、民俗、文献等、価値ある歴史文化資料を調査、購入、寄贈等により受け入れ、整理し保管します。
- ・新たな資料の情報が寄せられれば、調査しデータを収集します。
- ・収蔵資料と保管施設は、日常的に防虫防カビ、温湿度管理を行い、また定期的に燻蒸処理をして適切な保存環境を維持します。また傷んだ資料は補修をし、特に貴重な資料はレプリカを制作するなどして、展示活用を図ります。

2. 電子データ作成公開事業

- ・16万点に及ぶ博物館収蔵資料を、将来にわたって保存するとともに有効に活用し、市民の財産として広く公開します。
- ・収蔵資料台帳を整備し、デジタル化を図り、画像データとともに博物館ホームページで公開します。

◇事業の性質

開始年度	終了予定	会計区分	事務区分	根拠法令等	総合戦略	重点戦略	主要事業
					—		

◇事業のコスト

		H27	H28	H29
事業費(千円)	予算	4,721	4,855	4,385
	決算	6,883	4,424	
	国・県支出			
	市債			
	その他			
	一般財源	6,883	4,424	4,385
	一般会計繰入金			
人件費(報酬等) (千円)				
人件費 (千円)		13,900	16,700	17,200
人工	正規	1.4	1.4	1.4
	再任用(h31)			0.5
	再任用(h26)	0.5	0.5	
	非常勤	1.0	2.0	2.0

◇事業の指標(H30:重点戦略最終年度、H31:総合戦略最終年度、H36:基本計画最終年度)

主な事業活動・事業成果 指標(単位)				総合戦略施策体系		重点戦略項目No
新着資料の公開件数 (件)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	10	10	10			10
実績値	6	2				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
収蔵資料台帳の整備件数 (件)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	100,000	100,000	100,000			100,000
実績値	69,840	77,133				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
収蔵資料台帳の公開件数 (件)						
年度	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値	10,000	10,000	10,000			20,000
実績値	10,755	11,721				
主な事業活動・事業成果 指標(単位)						
年度						
	H27	H28	H29	H30	H31	H36
目標値						
実績値						

◇平成28年度の事業評価

・平成28年度の事業の概要

1. 資料の調査収集事業
 - ・考古、歴史、民俗、文献等、価値ある歴史文化資料を調査、購入、寄贈等により受け入れ、整理し保管します。
 - ・新たな資料の情報が寄せられれば、調査しデータを収集します。
 - ・収集資料と保管施設は、日常的に防虫防カビ、温湿度管理を行い、また定期的に燻蒸処理をして適切な保存環境を維持します。また傷んだ資料は補修をし、特に貴重な資料はレプリカを制作するなどして、展示活用を図ります。
2. 電子データ作成公開事業
 - ・16万点に及ぶ博物館収集資料を、将来にわたって保存するとともに有効に活用し、市民の財産として広く公開します。
 - ・収集資料台帳を整備し、デジタル化を図り、画像データとともに博物館ホームページで公開します。

・事業の成果と課題

指標の達成度

- ①本朝百人武将伝他、浜松の歴史を展示するために必要な資料、7件35点をを購入しました。資料収集については、寄贈または購入により随時行っており、収集の目標は達成できました。
- ②収集資料台帳の整備とデジタル公開については現在、計画より時間がかかると予想されます。本館・分館の収集資料の全てを整備するまで事業を継続する必要があります。

・事業の見直し

実施結果

大項目 小項目 / 事業費 人工

収集資料のデータベース化とデジタル公開を、よりスピーディーに、またより高品質なものにしていく必要があります。

今後の方向性

大項目 小項目 / 事業費 人工

本館と分館の収集資料を確実に後世に伝えるとともに、有効に活用するため、収蔵庫の確保、資料の分類・収納とデータベース化を進めていきます。監査から収集資料のデータベース化とデジタル公開を早急にすすめること、質の高い画像及び歴史的価値付けの充実を計るようにと指摘がされています。また、文化財IPMの知識・技能の普及にも努めます。